



にく 肉まんは、はじめいつどこで作られたの

ねんいじょうまえ ちゅうごく つく にほん 1700年以上前に、中国で作られ日本に

まんじゅうは中国から伝わったものです。肉や野菜をめでくるんでむして、肉まんじゅうとか、菜まんじゅうとかいわれました。中国でいつごろから作られたのかはわかりませんが、肉まんじゅうについてのエピソードを述べた文献があります。

それによりますと、今から約1750年ほど前、中国に魏・呉・蜀という強力な3つの国があったとき、蜀の総大将・諸葛孔明という人が、敵を征服しました。そのとき、天地が真っ暗になって、あたりはおそろしい光景になりました。その理由をとらえた者にきいてみると、「戦いで罪のない多くの人々の命を奪ったために、妖怪がいかりくるっているにちがいありません。この地方ではいけにえをささげて、神のいかりを静める習慣があるが、49個の首と羊や牛をそなえれば、きっと嵐は静まるでしょう」と進言しました。

はい にく はい いがい あんの入ったもの、肉の入ったもの以外のものも

そこで、孔明は小麦粉を水で練って、人の頭と顔ににせたものを49個作って祭ると、嵐がぴたりとおさまったということです。これが、まんじゅうの由来だということです。これと同じような話が、中国の古い文献にもいろいろ出ているのです。肉まんも、そのころから作られたと思われまます。

中華まんじゅうは、あんの入ったものと、肉の入ったものの2種類がありますが、そのほか、とりまんじゅう、焼きぶたまんじゅう、カレーまんじゅう、ソーセージまんじゅうなどたくさんの種類があります。（監修・保岡 孝之）

